



晴れの国おかやま 文化回廊

あ、晴れ! おかやま 国民文化祭

※国民文化祭・おかやま2010 平成22年10月30日(土)～11月7日(日)

『鏡野に集え! うたびと』

国民文化祭「短歌大会ボランティア」募集!!

*応募についての詳細は町内各公民館・振興センターに配置の「募集要項」をご覧ください。

- ◆大会日時・場所 平成22年11月3日(水・文化の日) 10:30～16:00・鏡野中学校 講堂
- ◆応募資格 応募時点で18歳以上の方(個人・団体は問いません。鏡野町民以外でも構いません。)
- ◆募集人数 50名程度
- ◆募集締切 8月31日
- ◆応募方法 下記の①～⑤をご記入の上、直接またはFAX・メールでご応募ください。
電話でも受付いたします。①住所、②氏名、③性別、④生年月日、⑤連絡先(電話・FAX)。
申込後、ご都合が悪くなったらご辞退されても結構です。
- ◆活動内容 大会会場での受付・案内が中心です。開会後は空き席でご聴講いただいて結構です。その他大会運営の補助員、駐車場への誘導など。活動内容のご希望をうかがいます。
- ◆補償・その他 活動はボランティアですが、大会当日の昼食(弁当)は用意いたします。当日はボランティア1日保険に加入し、怪我等の場合はこの保険の範囲内での補償となります。記念グッズを差し上げます。

短歌大会

平成22年11月3日(水・祝) 午前10時30分～ 鏡野中学校講堂(入場無料)

午前 **記念講演** 「半世紀の女性歌人」 講師: 歌人 篠 弘氏

午後 審査員 21 名による選歌選評。文部科学大臣賞以下の表彰式

◆問い合わせ

第25回国民文化祭鏡野町実行委員会短歌事務局

(鏡野町教育委員会 生涯学習課内) TEL 0868-54-7733 FAX 0868-54-3335

E-mail tanka@town.kagamino.lg.jp URL http://www.town.kagamino.lg.jp

鏡野町の歌碑① (奥津温泉「歌の小径」)

よ さ の てっ かん あき こ か ひ 与謝野鉄幹・晶子歌碑

■与謝野鉄幹 生没年: 明治6年(1873)～昭和10年(1935)

■与謝野晶子 生没年: 明治11年(1878)～昭和17年(1942)

与謝野鉄幹・晶子夫妻が奥津温泉を訪ねたのは、昭和8年(1933)夏で、鉄道を乗り継ぎ山陽路や瀬戸内に遊び、次いで新見から作州に入り勝山で一泊し、7月2日に院庄から車で作楽神社、奥津温泉を巡遊し、奥津温泉の名物でもある奇習「足踏み洗濯」も与謝野夫妻は河鹿園の欄頭から望んでいる。午後津山に着き鶴山城址、衆楽園を経て対鶴楼に宿泊した。鉄幹・晶子の奥津温泉での詠草は、推敲したもののが帰京後直ちに『冬柏』(第4巻第8号—昭和8年7月刊行)に「海より溪へ」と題して掲載された。推敲前後では用字が幾分異なっている。夫妻の残した歌は、河鹿橋西詰めから下流の吉井川右岸の遊歩道「歌の小径」の陶板歌碑で鑑賞できる。



与謝野鉄幹が奥津温泉で詠んだ歌

(『冬柏』による)

- の淵の青きを見て倚れば河鹿鳴き出づ岩のもとより
- 岩まろく盤の形す月も来て奥津の谷のここに澄むらん
- 洗う奥津のをとめの清きに立ちて踊るごと踏む
- 高く来てこの日世と断つ思ひあり奥津の溪に食む蕨かな
- をすでに感ずる心なり奥津の溪に遊ぶ涼し

与謝野晶子が奥津温泉で詠んだ歌

(『冬柏』による)

- どの山立つのの夏にめりわれは
- 奥津川の蔭のより出でて聞くなり驚の話を
- 大空ののおとも似たるべし奥津の湯場の山川の音
- 風立てばに少女子が占めたる岩も波越して行く
- かじかども分水嶺を何ばかり離れぬ山の溪にめて鳴く

*国民文化祭「短歌大会」に関連し、シリーズで町内に立つ著名な歌人の歌碑をご紹介します。